

手と手をつないで

No.349

柳井 美枝

(公社)福岡県人権研究所 特命研究員



オリニナル (子どもの日)と オボイナル (両親の日)

5月5日はこどもの日。端午の節句でもあり、日本では男の子の成長を願う祝日になっています。また、5月の第2日曜日は母の日ですね。感謝の気持ちを込めて母親にカーネーションの花を贈ることが定着し、街中の花屋さんは大忙しです。そして、6月の第3日曜日は父の日。

さて、お隣の韓国、韓国でも5月5日はこどもの日。韓国語では「オリニ(子ども)ナル(日)」という祝日です。韓国には女の子の節句がないので、オリニナルは、男女の区別なく、すべての子どもの健康と幸せを願う日になっています。この日、遊園地やデパートなどは、子ども連れの家族で大賑わいです。

3日後の5月8日は「オボイナル(両親の日)」です。母の日と父の日を同時に祝う韓国。オボイナルとはオモニ(母)の「オ」とアボジ(父)のボをあわせて「オボ」、「ナル」は日を表し、直訳すれば「母父の日」でしょうか。

そもそも「母の日」も「父の日」も、その起源はアメリカにあるそうです。1907年5月の第2日曜日に、フィラデルフィアに住んでいたアンナ・ジャー

ビスが、亡くなった母を偲んで白いカーネーションを教会で配ったことが「母の日」の始まりだと言われています。「母の日」の説教を聞いたワシントン州のソノラ・ドッドは「父の日」の制定を牧師協会に嘆願します。1909年6月の第3日曜日、ソノラは父を偲んで礼拝し、墓前に白いバラを供えました。ソノラの想いが実り、翌年ワシントン州で「父の日」が公認されますが、アメリカ政府が「父の日」を制定したのは、「母の日」制定から58年後の1972年でした。

戦後、日本でも「母の日」が定着していきませんが、「父の日」が広まっていたのは、1980年代の中ごろからです。実は、韓国でも1956年から「母の



日(オモニナル)」がありました。のちに「父の日も必要だ」という声が高まり、1973年に政府は「オモニナル」を「オボイナル(両親の日)」に改称します。オボイナルが近づくと「お父さん、お母さんありがとう」「サランヘヨ(愛してる)」と書かれたカーネーションの花かごやブーケ、鉢植えが街中にあふれます。お花を贈るだけでなく、両親に食事をごちそうしたり、現金や旅行をプレゼントしたりと、お父さん、お母さんにとっては幸せな一日です。父の日の盛り上がりには欠ける日本のお父さんには、ちょっとりうらやましいことかもしれませんね。

幼いころ、私が初めて贈った母の日のプレゼントは、スーパーで買った亀の子タワシと紙でつくったカーネーションでした。「小さな手でタワシをプレゼントしてくれたときはうれしかったよ」と「母の日」が来るたびに私の母は懐かしそうに語っていました。100年前のアンナやソノラのように、私にとつての母の日と父の日は両親を追悼する大切な日になっています。

日本とは異なり、性別に関わりなく祝される韓国の「オリニナル」と「オボイナル」。伝統や文化に違いはあっても、家族を想う気持ちはどこの国でも同じです。

